

本書の構成と内容

本書は前回の平成 15 年版原子力白書（平成 15 年 12 月）発刊以降、平成 16 年 12 月末までの原子力全般に関する動向をとりまとめた。

本書は、「本編」と「資料編」から構成される。

本編の第 1 章においては、国内外の理解と信頼の確保に向けた取組を「信頼回復に向けて」、「新たな事業実施のための信頼構築」、「国際社会の理解と信頼の確保」、「新たな原子力長期計画の策定等に向けた原子力委員会の取組」及び「これからの理解と信頼の確保について」のテーマに分けて示している。

第 2 章においては、平成 12 年 11 月に策定した「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」を踏まえた国と民間の活動の最近の動向を「我が国の原子力政策」、「国民・社会と原子力の調和」、「原子力発電と核燃料サイクル」、「原子力科学技術の多様な展開」、「国民生活に貢献する放射線利用」、「国際社会と原子力の調和」、「原子力の研究、開発及び利用の推進基盤」の各分野について具体的に説明している。

また、資料編では原子力委員会の決定等、原子力関係予算、年表等をまとめている。

なお、原子力開発利用にあたっては、安全の確保が大前提であり、原子力安全委員会、安全規制当局、研究開発機関、電気事業者、メーカーなどがそれぞれの立場で安全の確保に努めている。このことに関する取組については、原子力安全委員会がとりまとめる「原子力安全白書」において取り扱われている。本書においては安全確保のための規制の実施に関することを除いた、原子力委員会の掌握する原子力政策全般についてとりまとめている。